

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 岩井 祐一 所属: 東京学芸大学附属特別支援学校

記録日: 2022年2月28日

キーワード: スケジュール管理、持ち物管理、余暇支援

【対象児の情報】

・学年

- 特別支援学校高等部3年

・障害と困難の内容

- 知的障害を伴う自閉症

・使用した機器に

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

- (1) 見通しを持って生活を送ることができる。
- (2) 持ち物管理、身辺処理など「一人でできる」を増やす。

・実施期間

- 令和3年7月5日～令和4年3月17日

・実施者

- 岩井 祐一

・実施者と対象児の関係

- 担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

● 数学的能力

- ・基本的な四則演算やかけ算九九は確実に習得している。順番や規則などへの意識は高い。
- ・時刻を正確に読むことができ、〇〇分後の理解などもできる。
- ・設定した時間を過ぎたり、時間が示されたりしないと不穏になることがある。

● 国語的能力

- ・ひらがな、カタカナの読み書きは確実にできる。
- ・小学2年生程度、および学校生活上使う頻度が高い漢字の読み書きがおおむねできる。
- ・短い文章を読んで内容を理解することができる。

● 指示理解

- ・頻出する指示は、言語のみで理解できる（指示は簡潔で具体的な方が伝わりやすい）。
- ・学校生活では、実際の場面で挨拶や報告の方法を確認することで、挨拶や返事、課題終了の報告は自分から行える。
- ・自発的に必要なものを要求したり、簡単な質問をしたりすることができる。質問は疑問文ではなく、単語だけのこともあるが、表情や口調で内容を理解できるものが多い。

● 身辺処理能力

- ・着替えは一人で行える。シャツの裾の処理は、出ていることがあるが、声かけなどで整えることができる。

● 作業能力

- ・とても器用で、手先を動かす活動を好む。折り紙なども好きで、かなり丁寧にできる。
- ・作業では、具体的な回数、個数や終了時刻などを決めておくことで集中力、持続力が増す。
- ・道具の操作や工程などは、覚えるのが比較的早い。
- ・担当する作業の終了を理解しているが、報告までに時間がかかったり、違った表現で報告をすることがある。

● 社会生活

- ・集団の約束等は、しっかり覚えて習慣化することができる。
- ・しくやさ癖などマナー面での課題は残るものの、一般的な公共のルールを守って生活できる。
- ・待ち時間・休憩時間については約束やルールを決めておけると習慣として行うことができる。

● 性格や行動の特徴

- ・手先を動かす興味をもった活動（作る、書く）には、意欲的に取り組むことが多い。
- ・絵や電車が好きな生徒である。

● その他

- ・タブレット端末の入力は、「かな入力」が行える。
- ・現在の予定の管理は手帳（紙媒体）や学校から配布される週間予定表を参考にしている。
- ・今年度より、本人の生活の場所がグループホーム中心となった。休日は、自宅で生活している。
- ・卒後については、就労継続支援B型の作業所を希望している。

・活動の具体的内容

※以下、活動の内容について示している。新型コロナウイルス感染症による時差登校、授業変更、また本見を取り巻く生活環境の変化もあり、具体的な活用にまで至っていない内容もあるが参考として取組(予定含む)を掲載する。

● 【カレンダーの入力】

Google カレンダーを使用したカレンダーの活用を行った。

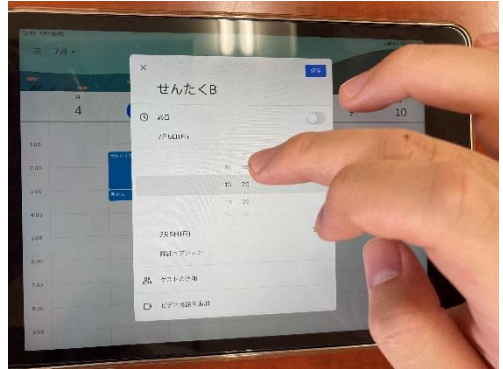
貸与されている iPadmini を使用し、7月中旬からは、生徒所持 (BYOD) の iPadmini を使用している。

Google カレンダーを通して、教員との共有を図った。

Google カレンダーに学校の予定(行事、授業など)と帰宅場所(自宅、グループホーム)を記入できるようにした。時間については、開始時間と終了時間を入れたり、グループホームに到着する時間や出発する時間などを入力。



(図1) Google カレンダーを入力



(図2) 授業の予定を入力

(図3) 生徒が入力したスケジュール



- 【写真アプリの活用】

余暇・イベントの写真の保存・共有・振り返りについて「Leafs Photo」を使用した。予定やスケジュールへの記憶やイメージが強いため、カレンダー形式で表示したり、簡単に年や月を変更して写真などを見られるようにした。学習の際に、これまでの活動を想起するために「Leafs Photo」を開き、日時を示してどのようなことをしたのかの手がかりとして使用した。また、3年間のまとめの学習では、1年生や2年生の内容を確認するために、カレンダー形式で日付をもどりながら行事や学習の内容について振り返りをおこなった。



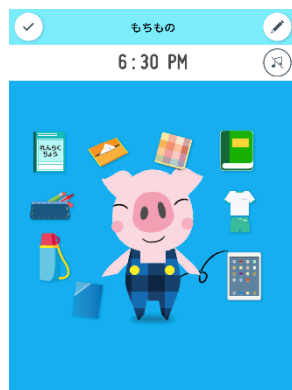
(図4) Leafs Photo



(図5) Leafs Photo の一部

- 【持ち物チェックアプリ】

持ち物管理、身辺処理など「一人でできる」を増やすという目標のために、持ち物の確認、チェックのための「Checkie!」の使用を検討した。時間になるとアラームが鳴るようになっており、自分で次の日の荷物(着替え、ハンカチ、タブレット、連絡帳など)を準備できるようにした。準備したものをタップしていくことで終わったものが分かりやすくないようにした。ポップで視覚的にも分かりやすい様子であった。活用までには至らなかったが、試用した際は「一人でできる」を増やすことができるツールであると考えた。



(図6) Checkie! — 文字のない持ち物チェックリストアプリ

- 【移行・連携に関する支援】

卒業後の生活や就労への移行がスムーズに行えるよう、本実践での活動を記録し、会議の場等を利用しながら共有する(今後、実施予定)。

- 【スケジュールや時間の変更にも対応したり順応していけるように支援していく】

毎週末に配布しているプリントの印刷係を担当した。時間になったら印刷室に行くという約束にして取り組んだ。徐々に、設定していた内容(プリントの枚数)や時間(20分に変更等)を変更する場面を作り、変更などへの対応にも馴化できるようにしていった。

・対象児の事後の変化

- コロナの影響も有り、ベースとなる月間行事（紙媒体）を見たときに年間予定と変更になっている部分があると気づいて、対象生徒にとっての抵抗感となり、教員に「〇〇は？」と尋ねることがあったが、「〇〇はありません。」と伝えタブレットへの入力をし、その日のスケジュールを確認すると、納得した様子でその後は気にすることはなかった。
- その他エピソードに関連して、これまで個別の学習では教員側が取り組む内容を設定しおこなっていたが、本人から「漢字やる」という言葉が出てくるようになった。筆順アプリに対しての興味があり何度も取り組んでいた。
- 写真アプリについては、自分で月を変えたり年を変えたりしながらこれまでの写真を見る場面があった。教員から「〇年〇月〇日はどこに行ったの？」と聞くと写真を指さしながら観光地や写真の内容を話していた。
- 時間や予定の変更への馴化については、変更をかけた直後はかなり気にしており不穏な様子をのぞかせることがあったが、具体的な時間の変更を伝えたり、説明をおこなうことで徐々に納得して活動することができるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

>何がうまくいったのか？人に伝えたいエピソードを教えてください。

- これまでゲームや動画視聴が中心のツールであったタブレット（ipad）から予定管理や余暇支援、学習にまで幅広く活用することができた。その中で興味のあるアプリを見つけて自ら取り組む様子も見られた。

>うまくいった理由と ICT の役割を教えてください。

- 様々なアプリを体験できたこと。また、本児のみではなく周りの生徒がタブレットでの学習や活用をしていることが本人にとっても違ったツールの活用に繋がったのではないかと感じた。

>うまくいかなかった事とその理由を教えてください。

- スケジュール管理については、学校で取り組む時間が一定せず、まばらになってしまうことがあった。

>ICT を使わなかったらどうだったでしょうか？

- スケジュール管理については、ICTのメリット紙スケジュールのメリットそれぞれがあると感じた。それぞれの強みを踏まえながら対象生徒に合う方法を検討していきたい。

・エビデンス（具体的数値など）

【本人】

- 予定の入力をしている際、日常のルーティンにない活動があると、「これは？」と自分から質問をしていた。
- 予定していた行事や活動が変更になった際、タブレットのカレンダー等を確認して説明をおこなうと、「〇〇はありません」と自分で確認をする様子が見られた。
- タブレットに過去の行事の写真を入れ「Leafs Photo」で見ることによって、「〇〇あったね」等と行事の名前を言いつつ、活動を振り返ったり、今年の内容について確認したりする様子が見られた。

【その他】

- ①生活の場となっているグループホームの職員からの生活に関する様子について聞き取りをおこなった。
 - グループホームでの生活については慣れていて、安定した生活を送れているように感じる。
 - これまでは、部屋で過ごすことが多かったが、最近は、部屋から出てきて他の利用者の手伝いをしたり、食事の準備片付けをするなど積極的にコミュニケーションをとっている。
 - 持ち物の準備については、支援が必要な時もあるが特にスムーズになってきている。
- ②他の教員より、本人のカレンダー入力の様子を見て、卒業後も取組を続けられると本人の見通しやスケジュール管理に有効なのは、という話が挙がった。

・その他エピソード(画像などを含めて)

● 【筆順アプリの使用】

教員が使用しているタブレットに「筆順アプリ」が入っており他の生徒が使用しているのを見て、本児が使用したところ、クイズ形式で問題が出て取り組むことができ30分程度は非常に集中して取り組んでいたため個別での学習に取り入れ取り組んだ。また、予定などの板書係として取り組む時間を作り、学んだことを生かす場面も作った。学習の要素もあるが、本人が自ら選び楽しそうに長時間取り組む様子が印象的であった。

● 【生活の場について】

生活の場がグループホームに移行した1年間であったが、少しずつアレンジをしながら本人の居場所として過ごしやすい環境を作っていた。たとえば、休日に通っている絵画教室で作成した作品を飾ったり、見える位置に1週間の予定を掲示して確認できるようにした。また、洋服の収納や洗濯に関しては、導線や本人が分かりやすいイラストなどを踏まえて工夫をすることで持ち物忘れが減った。過ごし方については、本人の特徴を踏まえつつ、他の利用者を気遣ったり、食事や服薬の時間を伝えてあげるなど積極的にコミュニケーションを図っている様子が見られている。